

## 愛知県立中村高等学校創立70周年記念式典 校長式辞

秋晴れの空に、色づきはじめた校庭の銀杏が美しく映えています。

このよき日に、愛知県立中村高等学校創立70周年記念式典を挙げていただけますことは、この上ない喜びでございます。

さきほど、記念事業実行委員会委員長の酒井秀樹PTA会長様、同副委員長の木村一郎同窓会長様には、心温まる式辞をいただきました。高いところからではありますが、厚く御礼申し上げます。

本来ならば、全校生徒が一堂に会した体育館に、本校の教育活動に関わる皆様はじめ、PTAや同窓会など多くの方々をお迎えして、感謝の気持ちをお伝えすべきところですが、未曾有のコロナ禍の中で、このように縮小した形での開催としました。

教室で視聴している1年生の皆さん、視聴覚室で視聴しているPTAや同窓会の皆様にはどうか御容赦いただきたく存じます。

そして、本校発展のために、御尽力・御支援をいただきました、歴代校長先生はじめ全ての関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

この記念事業は学校・PTA・同窓会の三者で実行委員会を組織し取り組んでおります。内容としましては、日本マクドナルドホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEOの目黒保典による講演会、70周年記念誌の作製、そして本校ホームページの全面リニューアルなどがございます。これらはPTAと同窓会の御支援により進めることができました。改めて御礼申し上げます。

さて、70年を振り返りますと、これまで2万6千人余りの卒業生を送り出しました。

昭和28年、愛知県で戦後初めての県立高校として熱田高校とともに開校。新しい時代を支えるひとづくりを期待されました。

普通科2クラス、家庭科1クラスの規模で、松蔭高校の校舎を借りてのスタートでした。翌年10月、現在地に完成した校舎に移りました。今の第1棟です。

開校6年目の昭和33年度、制定された校歌の一節にある「英気の泉 心のふるさと」は、豊臣秀吉、加藤清正らの英傑が生まれ育った中村の地から、今後も優秀な人材が育ち、社会で活躍することへの期待と、母校への愛着を表わしているそうです。

その後、生徒数は昭和39年度の1クラス55名1学年605名まで増加、マンモス校として大いに発展しました。

昭和48年度から昭和63年度まで、16年間の学校群制度時代には、明和高校と名古屋西高校と群を組み、県下トップクラスの人材が集まる高校として存在感を示すことになりました。今も、多くの卒業生の皆様が国内外で活躍しています。

しかし、平成元年度、37回生からの複合選抜入試制度の導入による入学生徒の変容にとともに、本校の在り方が問われることとなりました。

平成18年度からはオーストラリアのメントン校との交流事業を始め、平成22年度には姉妹校提携に発展させました。

この国際理解教育の実績に基づき、平成31年度、67回生からは国際理解コースを

設置し、学校の魅力・特色として海外交流事業をはじめとする国際理解教育を全校的取り組みとして推進する、新たな学校づくりに取り組んでおります。

今年4月、愛知県教育委員会はスクール・ミッションとして、各県立高校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像を再定義しました。

本校は「自ら学び、深く考え、主体的に行動する力と、国際的な視野を備えた生徒の育成を目指す学校」と「正義を重んじ、自らを律する人間性を備え、国際社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校」とあり、ともに「国際」の文言があるとおり、本校の国際理解教育への期待の大きさがうかがえます。

これに基づき、本校は「目指す生徒像・本校における学び・入学を期待する生徒像」をスクール・ポリシーとして入学から卒業までの教育活動の再構成を行いました。

核となる国際理解教育には、「姉妹校をはじめ他国の人々との交流を通して多様な価値観を認める素養を育む」教育活動に取り組み、「世界や地域の課題解決に向けた探究活動を通して、持続可能な社会の担い手となることができる人」を育成するとしています。

生徒の皆さん、どうですか。この機会に自身を見つめ直してください。

今、国際社会には「ロシアによるウクライナ侵攻」「中国による台湾侵攻の恐れ」「北朝鮮による核実験の恐れ」「過度な円安」など懸念される問題が山積しています。これらに関心を高く持ち、自身の課題として何ができるか何をすべきか、調査・研究する生徒が多く出てきてほしいと強く望みます。

先ほど述べましたとおり、本校では国際理解コースを設置し新しい挑戦・新しい学校づくりを始めて4年目です。

この春、素晴らしい成果をあげたI期生が卒業しました。

今、本校は中学校はじめ地域の皆様から、気に留めてもらえる学校として評価されつつあります。目標に向かって頑張った先輩に追いつけ・追い越せの気持ちで生徒の皆さんが続いてくれるものと信じています。そして、そこには惜しみない支援をしてくれる先生方がいます。私は本校に大きな可能性を感じています。

終わりにになりましたが、教職員・生徒一同、今後も校章が表わす「清浄」「努力と団結」を胸に、新たな学校づくりに一層努力することをお誓いし、式辞といたします。

令和4年10月28日

愛知県立中村高等学校長 小川 芳範